

公益社団法人 地盤工学会 関東支部

第 2 回関東地域における地盤情報の社会的・工学的活用法の検討委員会幹事会議事録

1. 日 時：平成 23 年 12 月 22 日（木）16：30～18：40
2. 場 所：地盤工学会 3 階中会議室
3. 出席者：龍岡委員長，安田副委員長，王寺，大井，木村、後藤，鈴木，土倉，丸山，安原各幹事，清木
4. 配付資料

資料 0 H23 年度第 2 回関東の地盤 DB 委員会幹事会議事次第

資料 1-1 H23 第 1 回関東地域における地盤情報の社会的・工学的活用法の検討委員会幹事会議事録

資料 1-2-1～2 H23 関東地域における地盤情報の社会的・工学的活用法の検討委員会 WG 構成一覧

資料 2-1-1 WG1 地盤モデル WG 活動方針（案）\_1020

資料 2-1-2 電子地盤図の件(基盤面の考え方)(メール抜粋)

資料 2-1-3 電子地盤図の件【教習会のご案内】

資料 2-1-4 日本地震工学会栗本様講演資料(地質地盤協議会の活動と法整備について)

資料 2-1-5 第 19 回地質調査総合センターシンポジウム開催案内

資料 2-2-1 関東の地盤 2013 データ提供依頼状(案)

資料 2-2-2 2011 データ提供依頼先リスト

資料 2-2-3 (事例)横浜市謹呈状（平成 23 年 12 月 13 日）

資料 2-3-1 「関東の地盤」(2013 年度版)執筆の要綱(案)

資料 2-3-2 「関東の地盤」(2013 年度版)執筆者への案内

資料 2-3-3 ○○県の地盤フォーマット

資料 2-3-4 転載の許諾書類(JGS 版)

資料 2-4-1 WG4\_フリーソフト調査\_資料\_20111222

資料 2-4-2 WG4\_地盤情報 DB 改良案\_20111222

資料 3 (別紙)関東の地盤(2013 年度版)目次案 22Dec2011

資料 4 関東地盤 DB 委員会の研究予算概算とこれまでの収支 V2

資料 5 FT【関東の地盤】③17-2 事業企画に対する表彰候補案 様式 1 V2

回覧資料 1 第 9 章 台地縁辺部地盤への適用

回覧資料 2 (独)産業技術総合研究所地質調査総合センター

第 17 回シンポジウム 地質地盤情報の法整備を目指して 平成 23 年 2 月 28 日

回覧資料 3 地質地盤情報の整備・活用に向けた提言 平成 19 年 3 月

5. 議事次第

0) 委員長あいさつ

- ・龍岡委員長の方から、各 WG の活動状況を確認する大切な幹事会であることが説明された。

1) 議事録の確認および WG 構成の確認

- ・清木の方から、第 1 回幹事会議事録(案)を確認した(資料 1-1)。また、第 1 回幹事会で調整した四つの WG 構成について再度確認された(資料 1-2-1~2)。

## 2) WG の活動方針・活動報告

- ・参加者の都合で、WG4、WG3、WG2、WG1 の順番で各 WG の活動進捗状況を報告し、意見交換を行った。

### WG1(地盤モデル WG)[安田副委員長，大井幹事]：

- ・第 1 回の幹事会で議論していたように、産総研、防災科研の地盤モデルと地盤工学会(振興調整費)の地盤モデルとを比較することはやめ、地盤工学会の地盤モデルだけを扱うことにする(資料 2-1-1)。対象は、当面工学基盤以浅(資料 2-1-2，回覧資料 1)。
- ・平成 24 年 1 月 13 日(金)に、全国電子地盤図の関連で、モデル作成の講習会が開催される(資料 2-1-3)。これに土倉幹事(群馬県担当)、後藤幹事の学生(山梨県担当)、清木(栃木県担当)が参加する予定である。
- ・埼玉県は和田委員、神奈川県荏本先生(神奈川大)が地盤モデル構築の担当予定、モデルを作成するに当たり、地盤情報データを自治体から受け取る必要がある。この件、担当を確認する必要がある。
- ・東京都の東半分の低地部分は安田副委員長の研究グループが担当し、本年度中に完成予定。茨城県は茨城大の研究グループ担当。
- ・山梨県は後藤幹事が担当して居られ、山梨県の建築士会からの膨大な紙媒体ボーリングデータが提供されたことが報告された。電子化の作業が必要であるが、できるだけ無償で学生に対応して頂く。
- ・地震応答解析、液状化については、安田副委員長が対応。
- ・地盤モデルの Viewer は、WG4(ソフトウェア WG) が対応する。電子地盤のツールは Viewer として利用可能である。
- ・神奈川県は平川先生にデータ収集および本文編集をお願いする(資料 2-1-1)。茨城県は安原幹事にお願いする(資料 2-1-1)。
- ・木村幹事に関連情報として、地質地盤協議会の説明を木村幹事に行って頂いた(資料 2-1-4，回覧資料 2，3)。地質地盤協議会から、地盤データ提供に対する提言が示されている。日本学術会議に委員会を設置して、地盤情報公開に関する提言を出す準備をすすめているが、早くとも H24 の 9 月頃になる模様である(資料 2-1-4)。地盤工学会もこの委員会に関わるべきであるとの意見が出された。
- ・1 月 31 日に産総研主催で行われるシンポジウムの広報が行われた(資料 2-1-5)。

### WG2(データ収集・維持・管理 WG) [土倉幹事]：

- ・JR 東日本にデータ提供をお願いしたが無理であったことが龍岡委員長から報告があった。
- ・土倉幹事から各担当に文面を各県でチェックをして頂く状況(資料 2-2-1)にあることが説明された。
- ・農林水産省に再度お願いする(資料 2-2-2)。東京都港湾局は別ルートで入手可能であったので、確認する。千葉県からもデータの提供が可能か確認する。浦安のデータもお願いする(200 本程度ある)。千葉県のインフォメーション・バンクに対応して頂くのは難しい。ただし、紙媒体のデータ

であれば公開が可能なので、データを頂くタイミングを見る。茨城県は 8 千本程度のボーリングデータの提供が可能。横浜市はデータ提供を検討中(資料 2-2-3：依頼済み)。さいたま市と千葉市を確認する。

- ・UR は安田副委員長が再度確認する。JRTT は再度龍岡委員長が他データの提供が可能ではないか再度確認する。
- ・JR 関連の地盤情報データは提供困難であるという見方があるが、一方で総武線、新幹線沿いのデータが紙媒体で公開されている。この資料をもとに龍岡委員長が再度 JR 東日本にデータの提供を依頼する。
- ・東京瓦斯からの地盤情報データの提供は難しいと考えられる。NTT も同様である。これらは安田副委員長から連絡する。東京電力は関係する担当者に大井幹事が連絡する。
- ・東京都世田谷、大田区、新宿区、板橋区などは紙媒体でボーリングデータなどの地盤情報を公開している。公開しているところはデータの提供をお願いしやすい。建築申請のデータがもらえる可能性がある。
- ・NEXCO などの会社から地盤情報データを提供して頂くには、学会や学の立場からアプローチするのが良い。担当者に安田副委員長から一応連絡する。
- ・各委員、幹事の方から、地盤情報データの取得可能機関の情報を WG2 に提供する。これを集約して実情を確認の後、WG2 の方から、データ提供の依頼を適宜行う。
- ・データの提供を単に「電子データ」と記載すると pdf データを提供するとも解釈されるので、「数値データ、ベクトルデータで提供」などと具体的に記載する方が良い。

WG3(本文執筆 WG)[後藤幹事、木村幹事、清木]：

- ・資料に従って、執筆依頼する手順と各都県の執筆者候補、執筆依頼案、執筆フォーマット案、著作権、転載許諾関連の書類案を説明した(資料 2-3-1～2-3-4)。著作権・転載の許諾関連は、書籍を電子化して DVD に収める際に対応できるようにする。
- ・WG の各都県担当者から、執筆者を推薦して頂く手続きをとる。基本は該当する都県から推薦して頂く。地盤モデルを取りまとめる関係から、各都県で地盤モデルを構築した委員が執筆者として加わることが望ましい。
- ・素案；埼玉県は、埼玉県環境科学国際センター八戸様と地盤モデルを構築される和田委員が適当と考える。
- ・執筆者は、各都県から推薦して頂いた候補を WG3 で確認し、幹事会に報告する。
- ・Workshop を各都県独立に開催すると、本文に取り入れるべきテーマを見落とす可能性があるため、関東地域をグループ化して東日本大震災の被災地で、比較的良く資料がまとまっている地域の震災現地の情報を取り入れることが望ましい。例：関東北部と南部で分け、震災のとりまとめを WG で実施する。この中で、中身がしっかりと纏まっている県(例：茨城県、千葉県)を第 1 回 Workshop で実施し、その他の地域を第 2 回 Workshop で実施。
- ・1 月末までに各都県執筆者を決定。Workshop の日程が第 1 回目 4/27(金)(地盤工学会地階会議室)、第 2 回目 5/24(木)(地盤工学会地階会議室)に開催するための準備を行う。
- ・Workshop の運営体制を早急に WG3 で決定する。
- ・執筆者の検討には全国 77 都市の地盤の執筆者も参考にするために、安田副委員長から関連するデ

ータの提供を受ける。

WG4(ソフトウェア WG)[王寺幹事、鈴木幹事、丸山幹事]：(資料 2-4-1～2-4-2)

- ・書籍「関東の地盤(2010 年度版)」に収められた Viewer を地盤モデルの表示ができるように改善することがキーとなる。手順については GRI と相談する。Viewer に読み込む形式は ACCESS 形式となっている。
- ・地質表示のラベルの対応、Windows7 対応(64bit は要検討)、土質試験結果の一覧表の表示をまず対応する。その他の細かい点は業務依頼の中で対応をお願いする。繁忙期を避けて修正を依頼し、時期を選んで、ソフトの修正を依頼する。
- ・160 万円の予算の中で最大限対応する。データベースを作成することが一義(予算 70 万円)で、データの種類の作業内容が変わる可能性がある。予算の残りでソフトウェアを改善する。
- ・(鈴木幹事) 防災科研及び産総研のソフトウェアについて調査結果を報告。7 種類のソフトがある。
- ・品質確認システムは年明けに更新される。標高の確認、位置の確認ができるようになる(大井幹事)。
- ・防災科研の地質情報 Viewer と連携することで、XML ファイルからそのまま柱状図を表示することも念頭におく。(現状は PDF として表示)

3) 書籍の構成について

- ・WG3 の活動報告を説明する際、資料に基づいて、各都県の執筆内容を含む第 3 章について、概要を説明した(資料 3)。  
→ 関東全域の地盤の章(第 2 章)について確認を失念した。

4) 今後の委員会の進め方について

- ・幹事会を開催し、データの収集状態、書籍執筆者の確認、Workshop の準備状況を確認する。

5) その他

- ・書籍「関東の地盤」(2010 年度版)の売り上げと過去 2 期の委員会活動費と本委員会の研究活動費 350 万円の関連について、支部運営委員会で説明し、概ね認められたことを報告した(資料 4)。
- ・事業部企画賞の候補として、書籍「関東の地盤」(2010 年度版)が関東支部から推薦されたことを報告した(資料 5)。

次回：第 3 回幹事会：2/29(水) 9:30～12:00 地盤工学会 3 階中会議室

以上